

佳作
(子どもの部)

「ん・ん・ん・ん・ん」をよんで

荒川区立第一日暮里小学校一年

竹添 慶

やなぎだくにおせんせいこんにちは。このおはなしは、「ん」だけでかかっているおはなしです。しろくろのいぬがさんぽちゅうにいるいろいろなものであります。さいしょは、みどりのまるいものでつぎに、いぬはくろいまるいものをみつけました。くわえてみたらふくろうでした。ふくろうをさわっていたらふくろうのおかあさんがきていぬを思い出していました。さいしょに、あかいまるいものをみつけたけれどいぬはなにもしませんでした。

このおはなしには「もたくさんでできて、ばめんごとに「わんわん」「るんるん」「くんくん」などなにがはいるかなとかんがえてよむのがたのしかったです。さいしょのみどりのまるいものは「くんくん」だとおもいました。あるいているところは「るんるん」だとおもいました。ふくろうのおかあさんやいぬのかおがかわっておもしろかったです。

「ん」だけしかでてこないけどじぶんでおはなしをそうぞうできてとてもたのしかったです。

柳田邦男先生からのメッセージ

おもしろい絵本を読みましたね。

この絵本の文をつくったのは、ことばを声に出して読んだときの音のおもしろさやたのしさやか

なしさやふしぎさなどについて、とても鋭(するど)く感じとり、その音のおもしろさを生かした詩(し)をつくるので、よく知られている人です。

この絵本のいぬは、かいぬしにつれられてさんぽをしていると、いろいろなもの()に出会うのですね。何に出会ったのかは描(えが)かれていないので、そのかわりに色のついた○が描かれているだけ。

はじめはみどりの○、つぎはくろい○、さいごはあかい○。そして、それぞれの場面に、「んんんん」と書いてある。どれもおなじように文字には「ん・ん・ん・ん・ん」としか書かれていないので、はじめは何だろうと思うでしょう。でも、竹添くんはよく考えて、さいしょのみどりのところは、いぬがこれは何だろうと、おいをかいで

いるのですね。「くんくん」と。

そして、いぬはそのものをくわえます。ふくろうの子どもでした。すると、ちかくにいたおかあさんふくろうが子どもをとりかえそうと、いぬにとびかかってきました。いぬは子どもをなして、おかあさんふくろうにほえました。「わんわんわん」と。それからいぬはかいぬしにひかれてさんぽをつづけたのですね。さんぽはいぬにとって大すきなことです。その気もちは、「るんるん」と表(あら)われています。

竹添くんは、読みおえて、『ん』だけしかでてこないけど、じぶんでおはなしをそうぞうできてとてもたのしかったです」と、絵本を、いろいろ考えながら読むたのしさを書いていますね。

そうなんです。絵本は、ただ文を読むだけでなく、

絵をしっかりと見て、どんなことを書いているのか、どんな意味なのかを考えて、先にすすむことがだいじなのです。竹添くんが、よく考えながら楽しんでたことがつたわってくるとてもいいおたよりでした。